

久留米市地場企業景況調査レポート(平成19年4月～6月期調査分)

< 調査目的 >

久留米市内地場企業の景況及び経営動向を把握し、今後の経営改善普及事業に資するとともに、これらの情報の集計結果を事業所へ提供し、経営の参考にしていただくために調査する。

< 調査対象 >

当所会員事業所を対象とし、建設業・製造業・卸売業・小売業・サービス業それぞれ120社づつ、計600社を任意抽出して実施。

< 調査要領 >

四半期ごとに調査用紙を郵送し、前年同月比や来期の予測について回答を求める。調査の集計は日商中小企業景況調査の集計方法に基づいた景気判断指数(DI値)で行う。

< DI値とは >

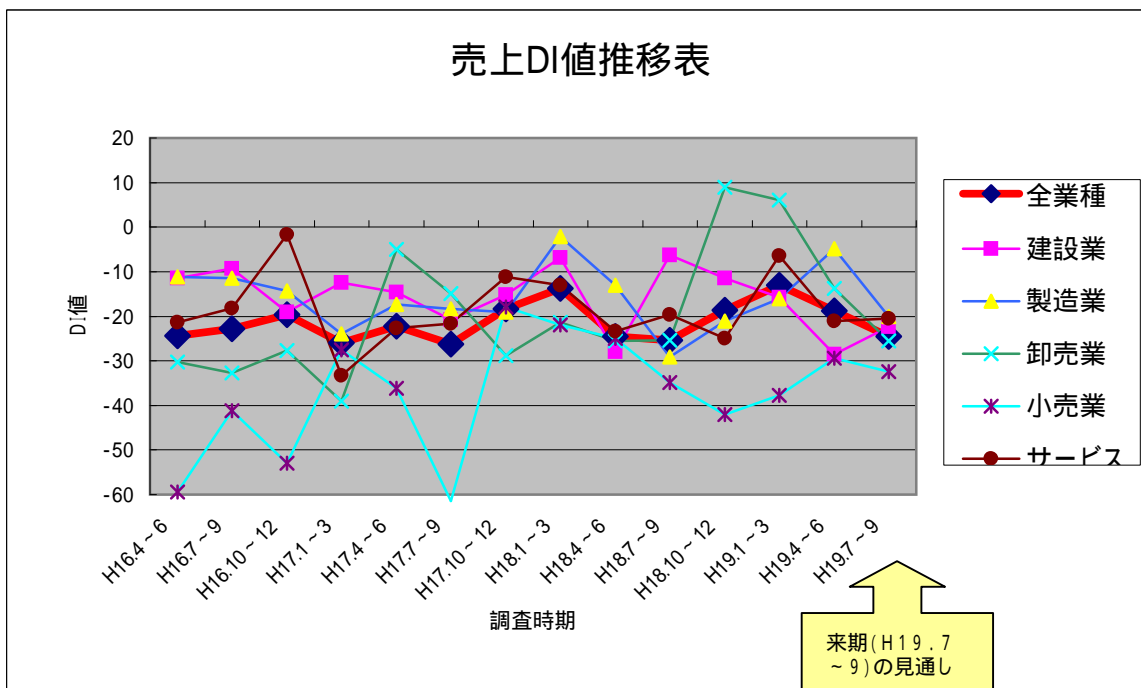
DI(ディーアイ。Diffusion Index:景気動向指数の略)値は、売上・採算・業況などの各項目についての、ヒアリング対象の判断の状況を表す数値。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答(「増加」や「好転」など)の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答(「減少」や「悪化」など)が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景況感の相対的な広がりを意味する。

$DI = (\text{増加・好転などの回答割合}) - (\text{減少・悪化などの回答割合})$

< 平成19年4月～6月期調査分回収結果 >

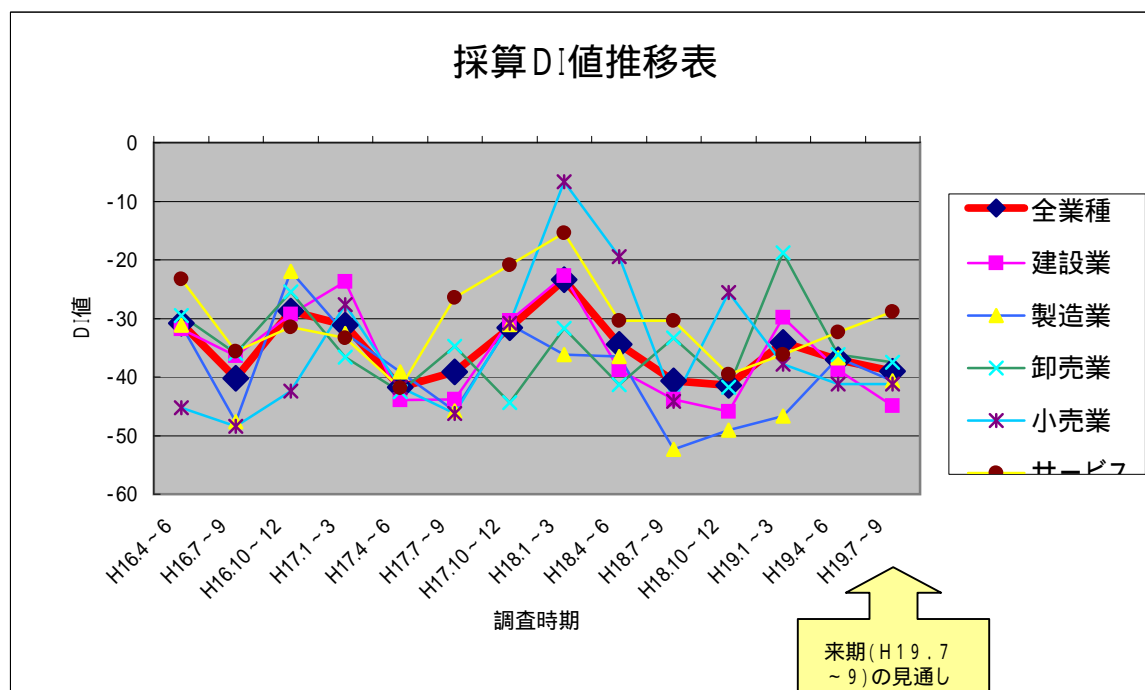
業種	対象事業所数	回答数	回答率
全業種	600	241	40.2%
建設業	120	49	40.8%
製造業	120	61	50.8%
卸売業	120	58	48.3%
小売業	120	34	28.3%
サービス業	120	39	32.5%

売上DI値推移表

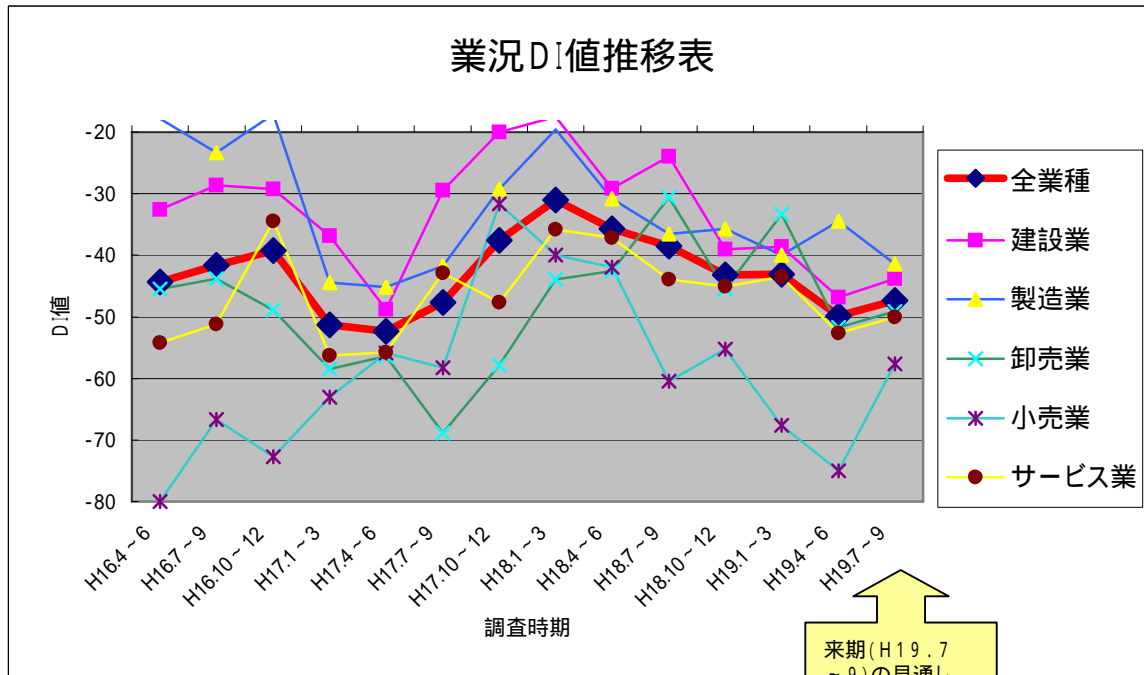


今期(H19.4~6)の久留米市地場企業景況調査で売上面での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は62社(前期比8社減)、「減少した」と回答した企業は107社(前期比4社増)、「横ばいである」と答えた企業は71社(前期比7社減)であった。DI値を見ると、マイナス幅は3期ぶりに拡大して 18.8となり、前期比で5.7ポイント悪化した。業種別のDI値では、建設業 28.6(前期比12.8P悪化)、製造業 4.9(前期比11.2P改善)、卸売業 13.8(前期比19.9P悪化)、小売業 29.4(前期比8.4P改善)、サービス業 21.1(前期比14.7P悪化)となった。来期(H19.7~9)の見通しでは全業種DI値は 24.5と、5.7ポイント悪化する見込み。

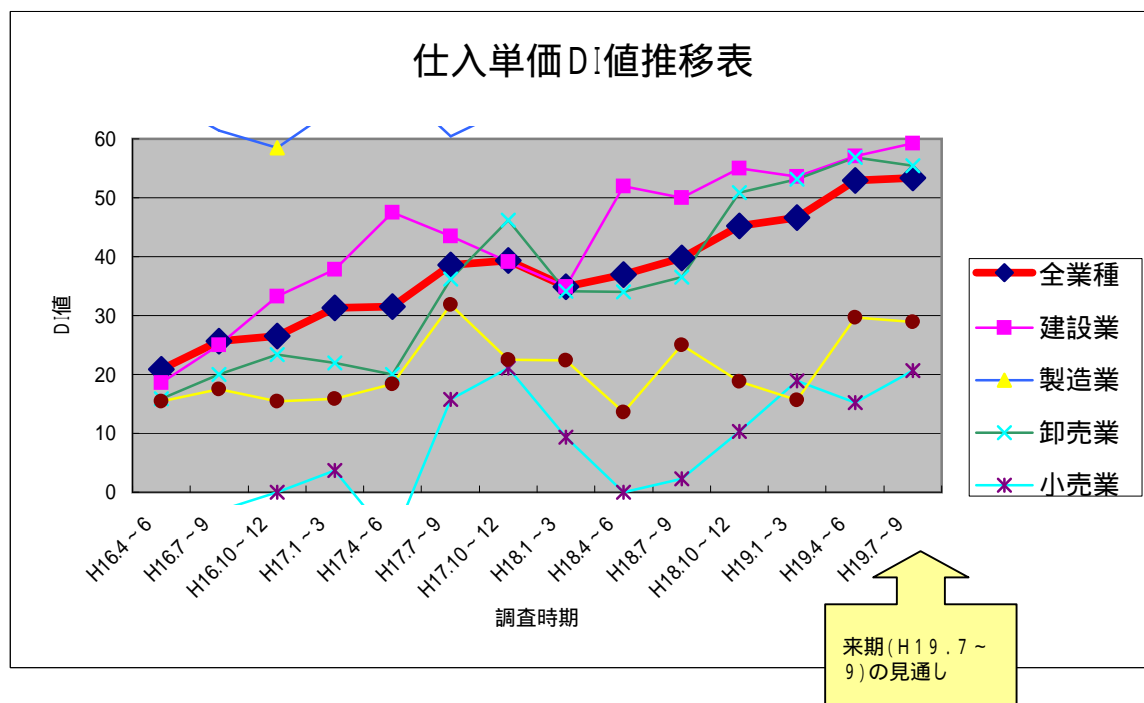
採算DI値推移表



今期(H19.4~6)の久留米市地場企業景況調査で採算面での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「好転した」と回答した企業は22社(前期比9社減)、「悪化した」と回答した企業は110社(前期比6社減)、「横ばいである」と答えた企業は106社(前期比4社増)であった。DI値を見ると、マイナス幅は2期ぶりに拡大して 37.0となり、前期比で2.9ポイント悪化した。業種別のDI値では、建設業 38.8(前期比9.0P悪化)、製造業 36.7(前期比10.0P改善)、卸売業 36.2(前期比17.4P悪化)、小売業 41.2(前期比3.4P悪化)、サービス業 32.4(前期比3.8P改善)となった。来期(H19.7~9)の見通しでは全業種DI値は 39.0と、2.0ポイント悪化する見込み。

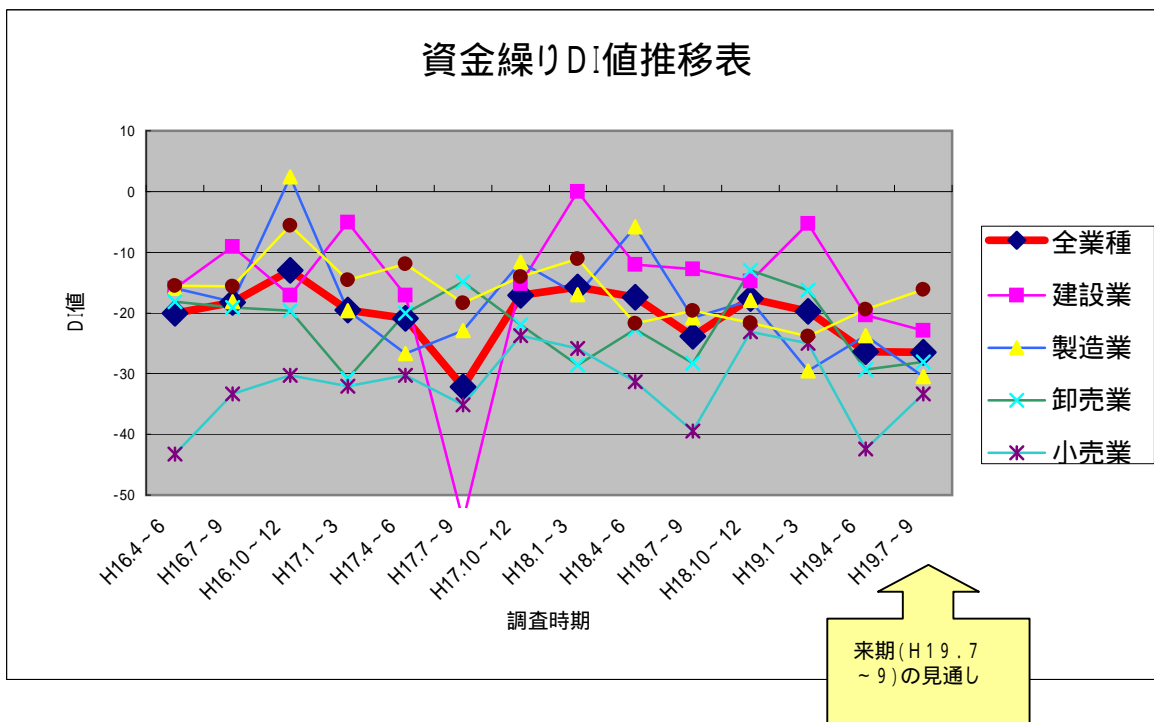


今期(H19.4~6)の久留米市地場企業景況調査で業況面での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「好転した」と回答した企業は15社(前期比同)、「悪化した」と回答した企業は131社(前期比9社増)、「横ばいである」と答えた企業は87社(前期比24社減)であった。DI値を見ると、マイナス幅は2期ぶりに拡大して 49.8となり、前期比で6.7ポイント悪化した。業種別のDI値では、建設業 46.8(前期比8.2P悪化)、製造業 34.5(前期比5.5P改善)、卸売業 51.7(前期比18.4P悪化)、小売業 75.0(前期比7.4P悪化)、サービス業 52.6(前期比9.1P悪化)となった。来期(H19.7~9)の見通しでは全業種DI値は 47.4と、2.4ポイント改善する見込み。



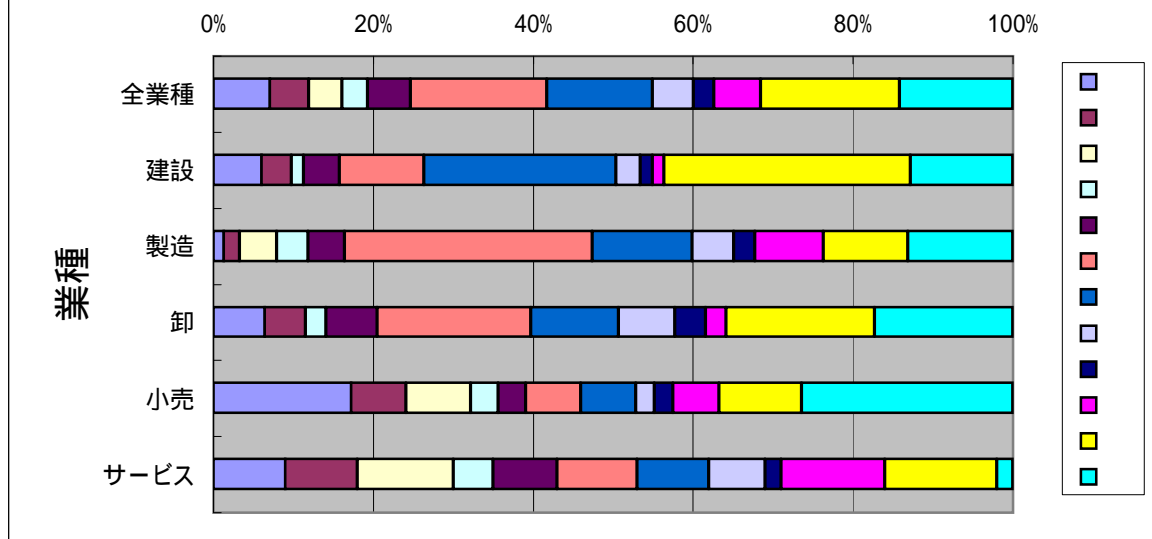
今期(H19.4~6)の久留米市地場企業景況調査で仕入単価面での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「上昇した」と回答した企業は141社(前期比13社増)、「低下した」と回答した企業は15社(前期比3社増)、「横ばいである」と答えた企業は82社(前期比27社減)であった。DI値を見ると、5期連続で拡大して52.9となり、前期比で6.3ポイント拡大した。業種別のDI値では、建設業 57.1(前期比3.5P増)、製造業 80.3(前期比6.1P増)、卸売業 56.9(前期比3.8P増)、小売業 15.2(前期比3.7P減)、サービス業 29.7(前期比14.1P増)となった。来期(H19.7~9)の見通しでは全業種DI値は53.4と、0.5ポイント拡大する見込み。

資金繰りDI値推移表



今期(H19.4~6)の久留米市地場企業景況調査で資金繰り面での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「好転した」と回答した企業は6社(前期比9社減)、「悪化した」と回答した企業は68社(前期比4社増)、「横ばいである」と答えた企業は161社(前期比9社減)であった。DI値を見ると、マイナス幅は2期連続で拡大して 26.4となり、前期比で6.7ポイント悪化した。業種別のDI値では、建設業 20.4(前期比15.1P悪化)、製造業 23.7(前期比5.8P改善)、卸売業 29.3(前期比13.0P悪化)、小売業 42.4(前期比17.4P悪化)、サービス業 19.4(前期比4.5P改善)となった。来期(H19.7~9)の見通しでは全業種DI値は 26.5と、0.1ポイント悪化する見込み。

経営上の問題点(複数回答可)



大企業の進出による競争の激化 同業者の進出 消費者ニーズへの対応 人件費の増加 人件費以外の経費の増加 仕入単価の上昇 販売価格の低下 金利負担の増加 事業資金の借入難 従業員の確保難 需要の停滞 その他
 今期(H19.4~6)の経営上の悩みとしては、「仕入単価の上昇(17.0%)」「販売価格の低下(13.2%)」「需要の停滞(17.4%)」を指摘する声が多く寄せられている。
 特に、建設業での「官公需要の停滞(30.8%)」、製造業の「原材料仕入単価の上昇(30.9%)」、小売業の「大型店・中型店の進出による競争の激化(17.2%)」に意見が集中した。

<事業所から寄せられたコメント>

- 「受注量は増加したが、請負単価が低いため、利益が上がらない」(電気工事業)
- 「借入金利の上昇」(塗装業)
- 「原油価格高騰により経営が圧迫されている」(その他の設備工事業)
- 「官公需要の停滞」(土木建築サービス業)
- 「民間需要が減り、材料価格が上昇しているため経営が苦しい状況」(一般土木建築工事業)
- 「管理職クラスの人材の確保難」(製穀・製粉業)
- 「業界では全般的に国内の受注が減少している」(一般産業用機械・装置製造業)
- 「飼料が原材料不足により高騰している」(畜産業)
- 「従業員の教育が急務」(一般産業用機械・装置製造業)
- 「鉄鋼材料代が異常なまでに高騰している」(その他の金属製品製造業)
- 「小売店への販売単価の値上げが困難」(食料・飲料卸売業)
- 「受注の減少と、経費(特にガソリン代)の増加」(その他の卸売業)
- 「得意先の経営状況の悪化」(その他の卸売業)
- 「今後の金利の上昇が不安」(機械器具卸売業)
- 「資金繰りが困難」(その他の卸売業)
- 「大型店同士の価格競争の激化による影響が大きい」(家庭用機械器具小売業)
- 「資金繰りが困難」(金物・荒物小売業)
- 「優秀な従業員の確保難」(婦人・子供服小売業)
- 「商店街の空き店舗が増加し、客足が減少している」(生花業)
- 「インターネット販売による低価格競争」(婦人・子供服小売業)
- 「原油価格高騰により経営が圧迫されている」(クリーニング業)
- 「中心市街地の空洞化が顕著」(駐車場業)
- 「インターネットを利用した顧客が増加」(その他の修理業)
- 「需要が停滞している」(クリーニング業)
- 「消費者ニーズの変化に敏感に対応していく必要有り」(自動車整備業)